

1. 2年部の取組 ～進路への意識づけ、進路の実現に向けて～

1年部



山脇先生による進路に向けての講話

2年部



各クラスに3年生を招いての進路学習

今回は1年部、2年部の進路に関する取組を紹介させていただきます。

1年部には進路に関する単元計画のようなものがあり、昨日はその中の1時間の授業についての指導案をもとに、各クラスで同じ「めあて」で取組がされていました。

2年部では、先週は3年生に各クラスに来ていただきインタビューをし、昨日は全体の場で3年生にインタビューをしたり、面接の様子を見せてもらったりしていました。

両学年とも、いつの間にもこのような計画や打合せ、役割分担、学年を越えた打合せを行っていたのでしょうか。ただただ感心させられるばかりです。

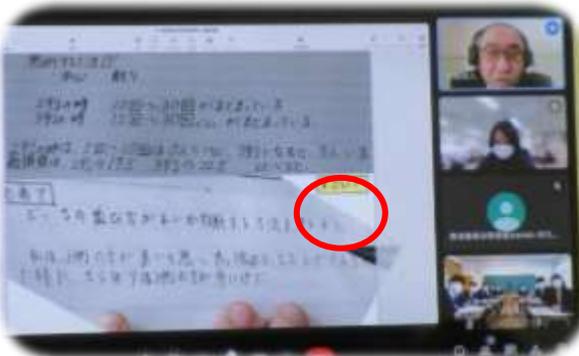


各クラスで面接体験



3年生へのインタビュー&面接の参観

水谷尚人教科調査官 リモートによる数学科との協議 (「教育課程実践検証協力校事業」)



先日の校内研では水谷尚人教科調査官からリモートによる講話をいただきましたが、その前には、数学科が水谷先生から単元構想や実際に行った授業に対してのご指導・ご助言をいただきました。

水谷先生は画面の中に、研究授業当日の生徒のノートや板書写真を写していただき、そこに、生徒の思考の「**ここがすごい!**」も示していただきました。(赤枠○印の部分)

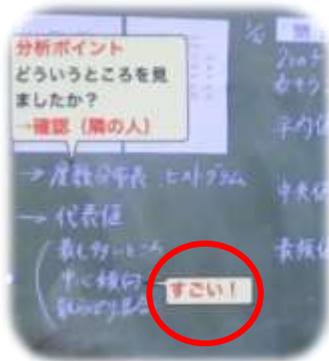
授業中の生徒の様子から、1年生が「**ICTで階級の幅を変えて考えることができていた**」ことや「**中心傾向を見ることができていた**」ことをほめていただきました。そして「**生徒がよく書けている、育っている**」というお言葉もいただきました。

水谷先生のお話や数学科との協議を聞きながら、データ活用の分野では、「どこに目を付けるか」「何を見るか」「何のために何がほしいか」など、きっと数学科がそこにこだわって見方・考え方を働かせることを鍛えてきたのだろうなと感じたことでした。

数学科、頑張ってます!

授業改善へのヒント

- * 小学校と中学校の学習の違いを明確にしておく。
小学校での学習をどれだけレベルアップさせることができるか。
- * 発問に意図をもっておく。
その発問は「何かを発見させたり気付かせたりするため」の発問か、「確認するため」の発問か(～とはどういうものだった?)。
- * 見取りと指名の工夫。
発言する生徒が決まっていないか。発言する生徒だけで授業が進んでいないか。意図的指名、挙手、無作為の指名、ノートや端末への記述から見取った意図的指名などの方法がある。
- * 言いつばなしにしない。
相手を納得させるだけの根拠をもって説明ができたか。「○○さんはこう言ったけど、みんなはどう思う？」などのやり取りが必要。
- * 授業の最後には自分の結論を持たせる。



水谷先生から、数学科へのアドバイスとして言われていたことでしたが、どの教科にも通じると思い、ここに載せさせていただきます。

